Ｓ２．久米島モデル研究センター部会・エネルギー部会

（国際海洋資源・エネルギー利活用推進コンソーシアム事務局）

1. 研究開発センター整備・構想部会について

研究開発センター整備・構想部会は、琉球大学屋副学長が部会長を務め、大学、民間企業、沖縄県海洋深層水研究所、政府機関が主な部会メンバー（またはオブザーバー）で構成されている。

本部会は、研究開発から実証、商用化までを実現できる総合計画「久米島モデル」における研究開発部門の中心を担う研究開発センター整備について検討する部会となっている。

また、各部会から意見・提案等を取りまとめる役割も担っている。

海洋深層水に関する技術研究開発ニーズとして、藻類育成、サンゴ保全、深海微生物・新規有用物質、希少金属等の回収、海洋温度差発電・海水淡水化、水素製造・燃料転換、複合的最適利用技術等が挙げられ、各部会からの提案・審議等にあわせ研究開発テーマについて議論されている。

また、日本は米国（ハワイ州自然エネルギー研究所）と並んで深層水利用技術分野の研究開発をリードしてきたことから、本研究センターでは、国際的な人材育成－国連機関など国際的な島嶼地域の人材育成支援と連携した取り組みも行う計画としている。

2. 海洋エネルギー実証フィールド部会について

海洋エネルギー実証フィールド部会は、佐賀大学海洋エネルギー研究センター池上副センター長が部会長を務め、大学、民間企業、沖縄県海洋深層水研究所及びオブザーバーとして、政府機関が主な部会メンバーで構成されている。

久米島海域が 2014 年 7 月 15 日内閣官房総合海洋政策本部から海洋エネルギー（海洋温度差）に関する実証フィールドとして選定された。

2015 年 4 月に追加選定された石巻市沖も含めて全国 5 県 7 か所の実証フィールドのうちの１つとなっている。

また、海洋再生可能エネルギーの中で海洋温度差発電に関しては、唯一の実証フィールドである。このフィールドを活用して、今年度から NEDO「海洋エネルギー発電システム実証研究」の下、新たな試験が開始される予定である。

本部会は実証フィールド（海洋温度差）の活用・展開等を議論し、久米島海洋エネルギー実証フィールドの利用をさらに推進するための課題と必要な整備や施策の抽出等をおこない、更なる実証フィールドの充実や研究開発センターと連携した利活用の推進を目指している。